

Title	福祉の役わり福祉のこころ実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2010 年度「福祉のこころ」研究講演会
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-4：31-33
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2671
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

2010年度「福祉のこころ」研究 講演会
福祉の役わり 福祉のこころ
 実施結果—アンケート集計結果の概要—

戦後いち早くE・W・トムソンという米国の宣教師が横須賀市田浦地区に福祉の拠点を作り、地域住民のニーズに応えようとした。それが横須賀基督教社会館である。第2代館長の阿部志郎氏は住民のニーズに応えるばかりでなく、住民が「自分たちの町の社会館」というコミュニティ意識を持つよう軌道修正を図った。そして社会館への住民の主体的な関与を熟成させようと努力している第3代館長である岸川洋治氏を迎え、新しいビジョンのもと、社会館が今後どのような発展を遂げるのかについてお話を聞く。

日 時 2010年11月27日 (土)13時30分 ~ 15時45分
 (開場13時)

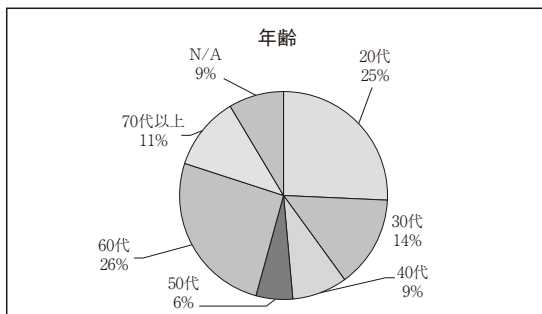
場 所 聖学院大学 4号館 4階4401教室

【プログラム】

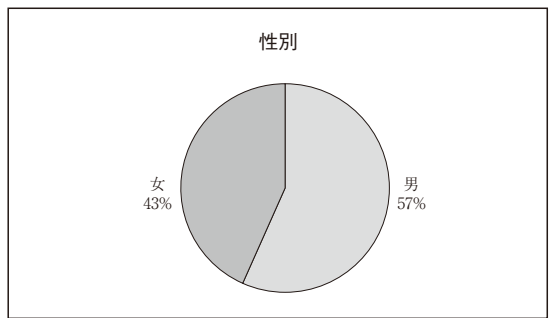
- 挨拶 阿久戸 光晴 (聖学院大学学長)
 講演 「住民の力とコミュニティ形成」
 岸川洋治 (社会福祉法人横須賀基督教社会館 館長)
 対談 岸川洋治 (前掲)
 柏木 昭 (聖学院大学総合研究所名誉教授)

【結果の概要】

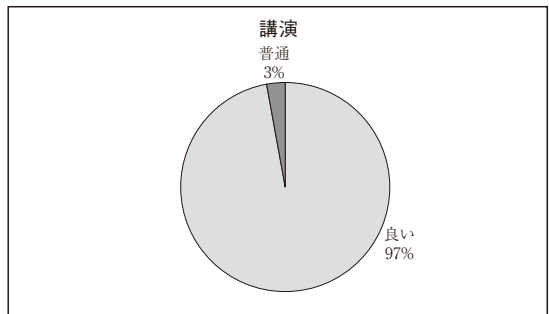
参加者の人数は56名。内アンケート回答者は35名。



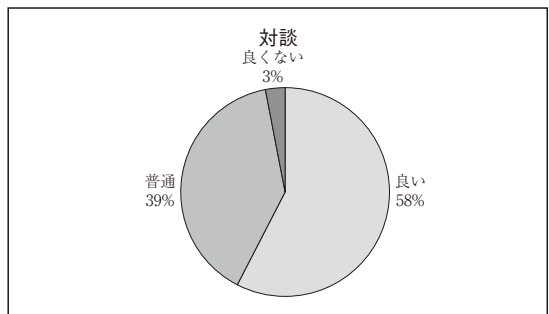
・参加者は20代と60代の割合が比較的高いものの、あらゆる年齢層にわたっていた。



・性別は男性がやや多かったが、大きな男女差はなかった。



・「良い」が97%を占めた。



・良いが58%、普通が39%であった。



横須賀基督教社会館・館長 岸川洋治氏

講演について

- ・一人暮らしの高齢者が増えている今、社会館でおこなわれている活動を積極的にすることで、高齢者の人々がよりよく自分らしく生活できるようになればよいですね。
- ・小さな住民によるコミュニティや民生委員の力の偉大さを知ることができ勉強になりました。
- ・地域の方々が自発的に声を上げたり、立ち上がったたり、活動されているのは本当に素晴らしいことで感動しました。また、その活動をつないだり支えたりする役目を果たされているのだなと感じました。
- ・地域のコミュニティの問題は高齢者だけでなく、若い人たちにもいえるような気がしました。
- ・経過を含め、具体的説明で特徴のある田浦町の社会福祉活動の現実が良くわかりました。
- ・私は施設職員です。今日の話聞き、今施設がいかに閉じられているか、密室化しているかを改めて感じました。地域に根づく施設と掲げていても、私の施設はその場限りになりがち、孤立しがちにあるように感じます。コミュニティとは何か。改めて考えていかなければという私の課題を今日見つけることができました。ありがとうございました。
- ・地域のニーズは何か、変わっていく、新しいポイントを読めるようにしたい。…また伺いたい。ニーズ見直し賛成。
- ・具体的にどのように活動を展開しているのかを丁寧に説明していただき「コミュニティの形成」とはどういうものかがイメージしやすかつ



講演に続き対談が行われた



参加者は56名であった

たです。

- ・ご婦人を訪問した話を聞き、快適な場所や暮らしやすい場所で生活することが、その人の願っている生活であるとは限らないのだとわかりました。
- ・自分が死んだ時に仲間が来てくれるから安心！と言った人の言葉は意味が良くわからなかった。生きているうちに仲間が来てほしいのなら理解できるけど。
- ・成功事例が多かったので参考になりましたが、成功しなかった事例・課題などももう少し取り混ぜて欲しかったです。
- ・テーマ、実績は素晴らしいが、もっと活動について具体的な話が聞きたかった。
- ・後半部分をもう少し深めていただけたらと思いました。
- ・とても有意義なお話で感銘を受けました。
- ・この地域に同じような社会館があれば良いと思います。
- ・説明がわかりやすかった。

対談について

- ・地域から孤立させない福祉サービスについて、困難は多いかと思いますが、そのことを目標にやっていたら本当に良いと思います。
- ・「地域と共に」は自分のことも含まれ、将来自分のためになるようなことだと思います。
- ・目に見える活動をすることがコミュニティの最初の一步だとわかりました。
- ・住民と社会がつながることで、より良い福祉が

できるのだと理解しました。

- ・コミュニティ形成について、自分はどうか考えるかをまず考えてみたいと思いました。
- ・給食サービスというと戦後のMSAによる給食のイメージが強く、仲間と食事するなら会食サービスのほうが目的にも合うと感じる。
- ・密度の濃いお話で感銘を受けました。
- ・もっと時間をとって欲しかった。
- ・一方的な講演ではなく、対談形式を取り入れていただいて良かった。
- ・対談なのでキャッチボールをもう少しして欲しかった。
- ・対談というより、二つのテーマを二人の人が話したという感じであった。もう少し微調整が必要ではないか。
- ・柏木先生の話が長く対談になっていません。もっと質問に対する岸川先生の話が聞きたかったです。
- ・対談とはいえ、柏木氏の話（自分の考え・主張）の時間が長すぎたと思う。柏木氏は講演者の岸川氏から話の引き出し役に徹すべきであった。来場者に対して質問表を提出してもらったにもかかわらず、その質問時間が少なくなってしまう残念である。柏木氏は自分自身の役割・姿が見えていないと感じた。
- ・講演のタイトルにある「福祉のこころ」をもう少し取り入れて欲しいと思った。

自由意見

- ・長年の実績を分かち合ってください感謝します。
- ・コミュニティーは「あいさつ」からを心におきたいと思います。
- ・私はコンピュータの世界の者です。地域社会を支えるコンピュータシステムの研究をしたいと思っています。
- ・学長さんの短い話の中に共感する話題があったように感じた。ボランティア的な程々の働き方で工夫する社会が良いのかなと思った。
- ・ありがとうございました。